

# その 歩 みの 先に、



## 提案概要

対象街区内の歩行専用の狭く細い道に注目し、それらの魅力・問題点を考慮しながら街路の整備や新設、沿道の活性化に取り組み、それにより対象街区の段階的再生に試みる。

対象街区の南と東には交通量の多い道路が通っており、この二つの通りは、明治時代には須坂の町屋が一面立ち並んでいた。その裏には畑が存在していた。その後人口増加により田畑の代わりに住宅地が急増、それに伴い公道から宅地に向かう歩道が整備された。その道のなかで住民たちの会話や交流、子供たちの遊びなどが行われていたと考えられる。きっと活気溢れる歩行空間だったのだろう。

現代では自動車の普及により、屋外で人とばったり会ってお喋り、なんてことは無くなり、ご近所との関わりも減ってしまった。さらに、インターネットを使えばさまざまなコンテンツを無料で享受できるようになり、外で遊んだり出かけたりする機会も減った。外空間はすっかり寂しくなってしまった。

本提案では、「街路」に注目して、かつてのこの地の賑わいを取り戻していく手立てを提示する。



# 第 零 歩

## Step.0 其ノ壱 現地調査

数回に渡る現地調査により、自動車が通れないような狭い道がいくつか存在していることがわかった。これらを表の大きな道路から覗いた時、奥の空間への興味と期待でいっぱいになった。またごく少数の住民にしか使われていない道や、周囲の環境との関わり方から、街路を通せそうな空地もいくつか見つかった。

### 現状の歩行者用街路

日常生活で使われている街路。一部は舗装されていて利用しやすい。対象街区にはこういった歩行者のためだけの街路は少ない。

### 一部にのみ利用される小道

周辺の住民のみが利用しているような狭い道。整備をすれば街区内部での移動が楽になりそうで、利用可能性を秘めている。

### 駐車場と空き地

対象街区にはぽっかり空いた空間や駐車場が多く存在する。周りの環境との関わりに注目すると、その中には街路に利用できそうなものもある。

### 歩行者に不親切な道路

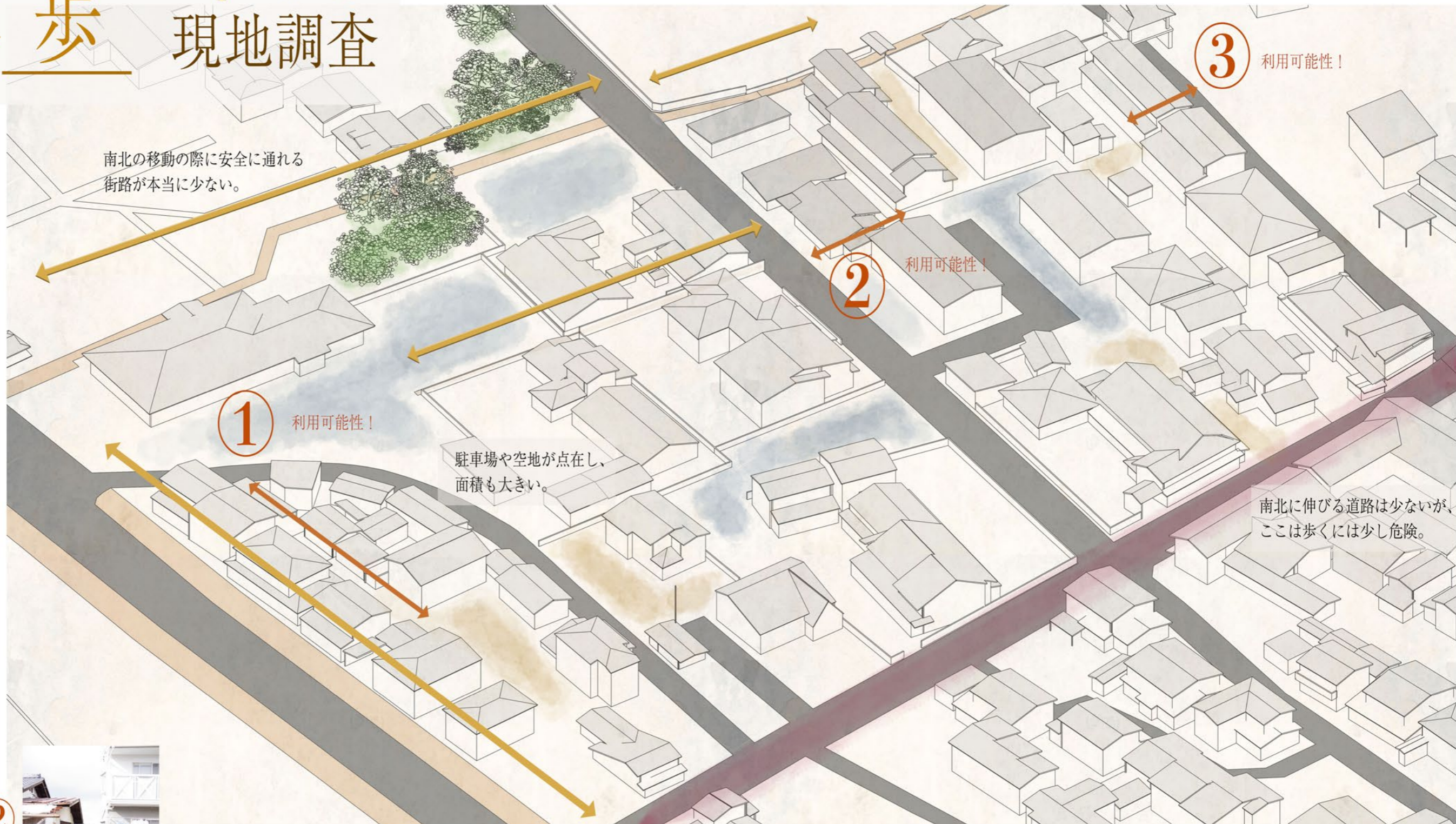
敷地東側に位置する大きな道路だが、歩道がなく交通量が多いため歩きづらく、南北の移動には不便。

### 利用可能性を持つ細道の例

①



③

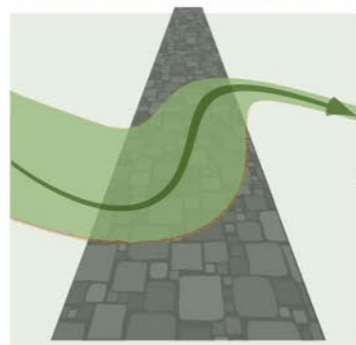


## 其ノ弐 再生の方針

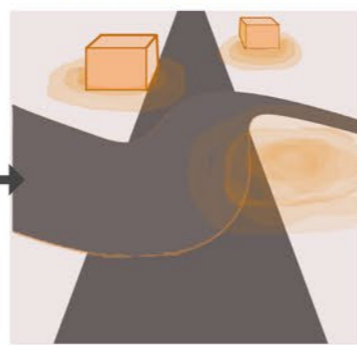
調査を進めていく中でわかったのは、これらの街路はこの街区が住宅でいっぱいだった時代に住民らの移動に欠かせなかった道だったということ。今ではそれらも減少し、すっかり廃れてしまった。これらの街路を復活させることで、街区全体の再生に取り組んでいく。

### 街路

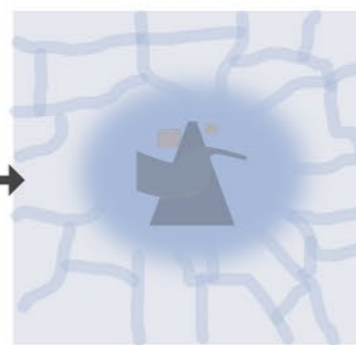
新街路の追加、既存街路の整備



街路内や沿道の盛り上げ

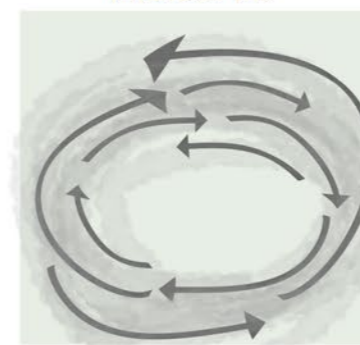


街区の外への展開

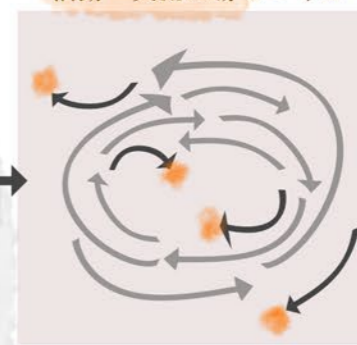


### 街区

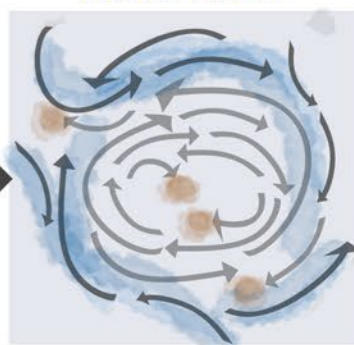
回遊性を向上



地域住民のための  
活動・交流の場をつくる



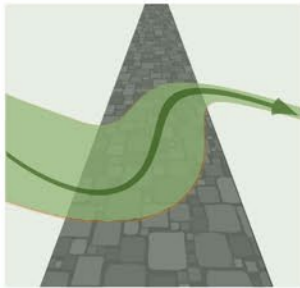
外部からの来訪者、  
移住者を巻き込む



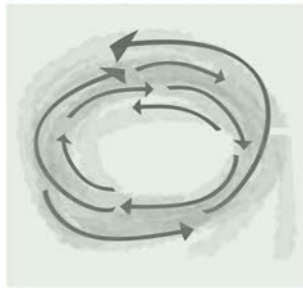
# 第 壱 歩

## Step.1 まちを巡る道

街路：新規と既存の整備



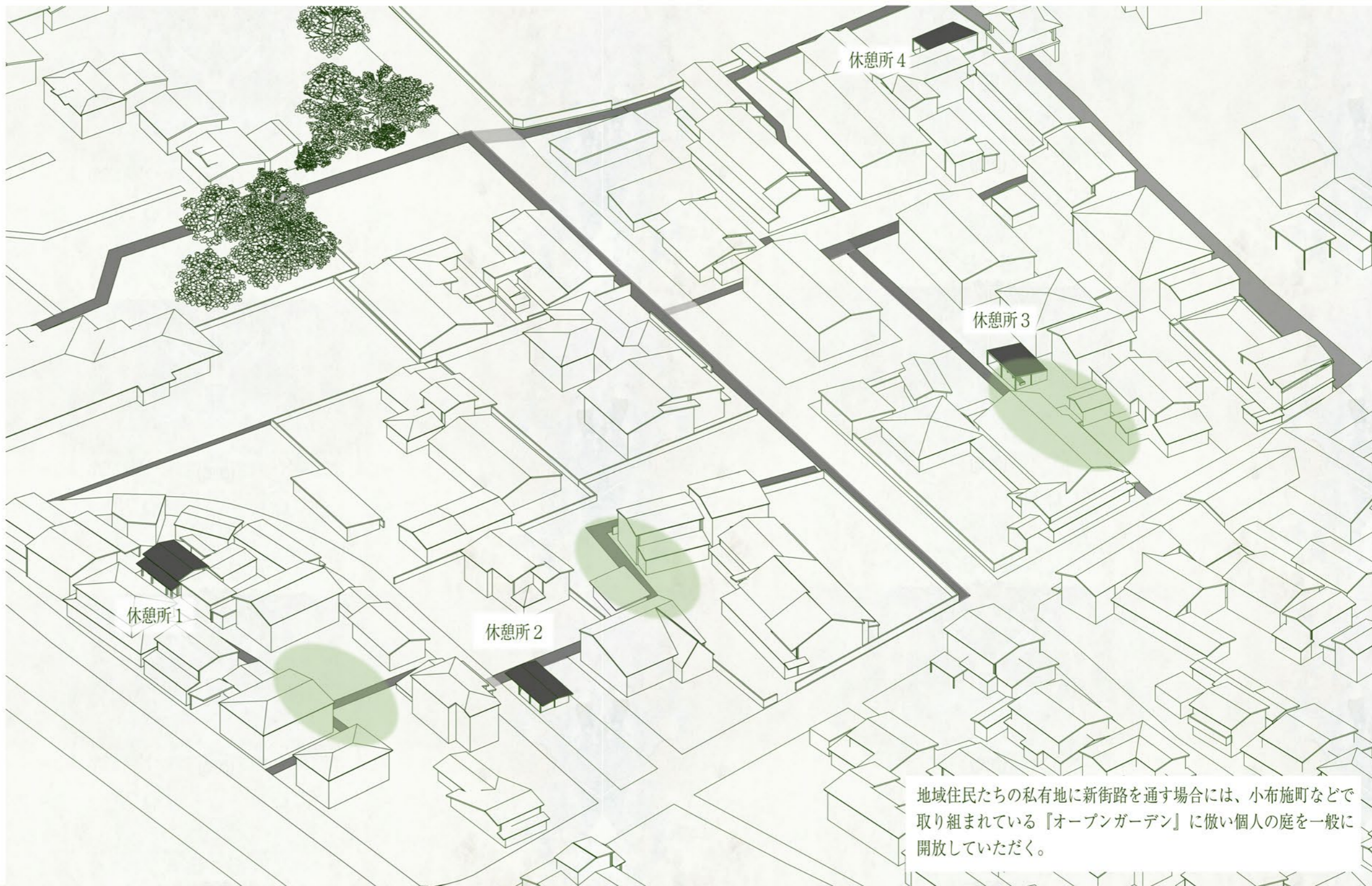
街区：回遊性向上



新規街路の伸ばし方



休憩所 1



地域住民たちの私有地に新街路を通す場合には、小布施町などで取り組まれている『オープンガーデン』に倣い個人の庭を一般に開放していただく。

対象街区内の現状の歩行環境を観察してみると、そもそも道自体が少ないこと、通れる道も足元が土だったり砂利だったり、交通量が多かったりして歩くのに不向きであるということがわかる。

Step1 では以下のような操作に取り組む。

### 一．旧街路の環境整備

まず歩きづらさをなくすために、旧街路を舗装する。これにより利用するときの不便さを解消する。次に沿道に植栽を置いたり逆に覗いたりして環境を整え、景観的な向上をして旧街路自身を蘇らせる。

### 二．新しく街路を通す。

街区内に新しい道をつくることで歩いての移動がしやすい環境を整える。通勤・通学、お買い物、休日の散歩などで地域住民たちが利用できるようにする。回遊性の向上により、屋外での人々の活動が増えてくる。また、旧街路と同様の舗装をすることで新旧の間で連続性が生まれる。

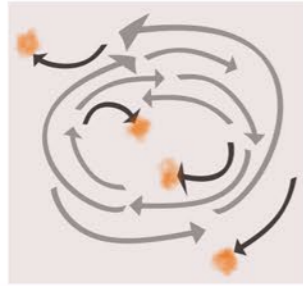
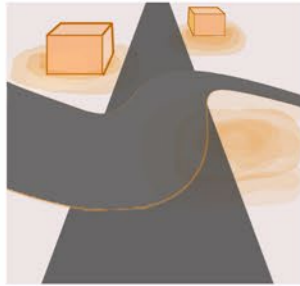
### 三．休憩所の設置。

街路内に歩行者が休憩に利用できるように東家を点在させる。

# 第 2 歩

## Step.2 人集い賑わう道

街路：街路・沿道の盛り上げ 街区：交流の場を生む



地域住民の活動や交流の拠点となるような空間をつくっていく。街路の中や沿道の屋外空間、建物で人々がアクティブに動くことで、街路や空間自体、さらには街区全体までもが賑わい、活力を取り戻していく。

### 学童と公民館

放課後の小学生が利用する学童、町内会や地区子供会の行事で使われる公民館。いつでも自由に立ち寄れる開放された空間。



配置平面図 (S=1/200)

### 工房

地域のイベントとして、伝統工芸の体験ワークショップが行われたり、近くのクラフト工房が体験会を開いたりする。紐細工、木彫り細工、色塗りなど。

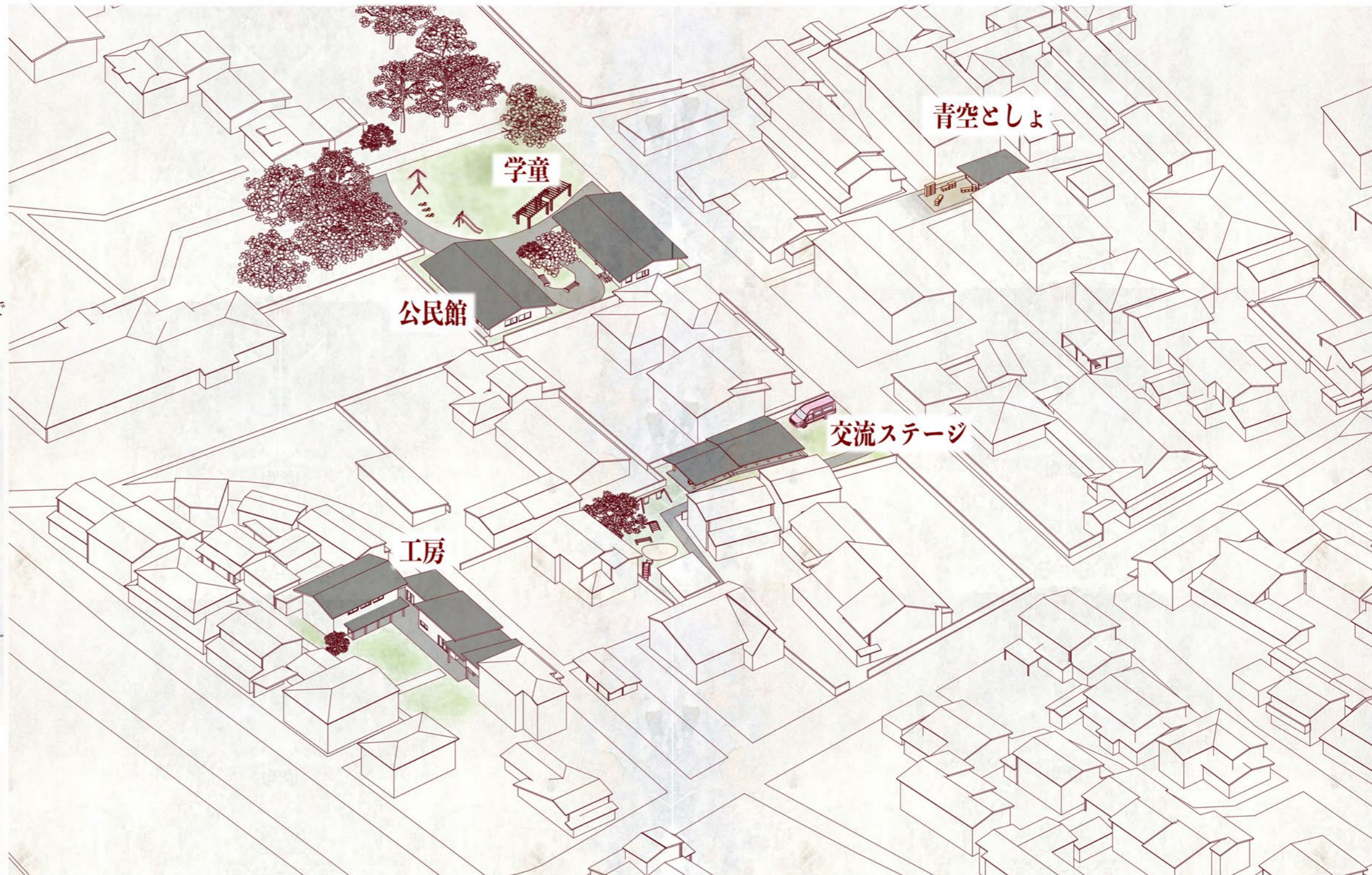
### 交流ステージ

イベントや音楽教室の発表会が開催されるステージ。壁を一切なくし半屋外空間とすることで街路の通行人を誘い込めるような空間となっている。



### 青空としょ

さまざまな年代の住民たちが利用する屋外図書空間。キャスター付本棚はいつも奥の倉庫に仕舞われている。休日には児童向けに読み聞かせ会が開かれる。



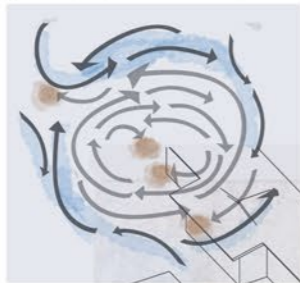
# 第 参 歩

## Step.3 外へと広がる道

街路：街区外への展開



街区：外部の人々を巻き込む



### 街区外への街路の展開

#### = 活力の波及

街区の外でもStep.1と同様な操作を行う。同時に、内外の行き来がしやすくなるように歩道橋や横断歩道を整備する。

これにより、街区内の住民は新しい発見や出会いを経験できる。街区にはさまざまな人が訪れ、まちがさらに賑わうと期待できる。この活力が須坂全体に広がっていく。

### 集合住宅

2020年の須坂市の人口の社会増減値は、+112であった。このほとんどが0~10歳の子供とその親世代だった。これは教育機関の充実さと市の取り組みによるものとする。この二点から今後も子育て世代の人口が増加すると予想し、集合住宅を建てることを提案する。

共有スペースや中庭では、入居者同士だけでなく周辺の地域住民との交流が生まれたり、子供たちが遊んだりする。また、その二つの空間を利用して青空としよの読み聞かせ会がより大きな規模で開催される。

南北断面図(S=1/100)



まちの更なる発展と活性化のために、街区の外側に目を向けた取組を行う。

### レストラン

駅からのアクセスを考慮し、観光客向けの施設を街区の南側に生み出す。観光客はレストランにて食事をしたり、工房での体験ワークショップに参加したりする。

さらに、工房の一部を観光客をターゲットとしたショップにし、近所のクラフト工房で生産された木製の生活雑貨家具類を販売する。



レストラン、ショップ、工房に囲まれた街路と広場

